

JTU Stories

公益社団法人日本トライアスロン連合 <JTU マガジン Web版> 2018年度 Vol.1

トライアスロン 2018

the home of
triathlon



シーズン開幕！ 東京オリンピック・パラリンピックへ

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会まで、あと2年3カ月。
オリンピックの出場資格ポイント獲得はこの横浜大会から始まる。
パラリンピックの出場資格ポイントランキングは実施クラス確定後にスタートする予定だが、
今年からのポイントの積み重ねが出場を大きく左右する。
5月12日(土)に迫った、ITU世界トライアスロンシリーズ横浜大会の動向を探る。

1990 NTTによる
トライアスロン支援スタート



つなぐ、を、つよく。

2000 トライアスロン
オリンピック正式競技へ

2010 第1回ユースオリンピック競技大会
金メダル (佐藤優香選手)

2016 パラトライアスロン
パラリンピック正式競技へ

2020 東京2020
オリンピック・
パラリンピック開催

声援よ、響け。
未来を拓く者たちに。

トライアスロン応援動画を
スマホでチェック!



NTT東日本は、東京2020で行われる
トライアスロン・パラトライアスロンを応援しています。



TOKYO 2020
OLYMPIC GAMES



TOKYO 2020
PARALYMPIC GAMES

東京2020 ゴールドパートナー
(通信サービス)



Top interview

トップ・インタビュー

順調な今年の滑り出し

JTU オリンピック対策チーム

チームリーダー 中山 俊行

ー:日本の2018年シーズンは、5月12日(土)のITU世界トライアスロンシリーズ(WTS)横浜大会で始まります。

中山俊行:海外では、すでにWTSアブダビ大会、ITUワールドカップ(WC)ムールラバ大会、WCニュープリマス大会が開催されています(2018年4月27日現在)。アブダビ大会では佐藤優香(トーンパートナーズ、NTT東日本・NTT西日本、チームケンズ/山梨)が8位入賞、ニュープリマス大会では高橋侑子(富士通/東京)が5位入賞するなど、女子の滑り出しはまずまずといったところです。

ー:上田藍(ペリエ・グリーンタワー・ブリヂストン・稲毛インター/千葉)

と井出樹里(スポーツクラブNAS/神奈川)はどうでしょう。

中山:アブダビ大会では、15位に上田、22位に井出、まだ本調子ではありませんが、上田はランで追い上げる得意のパターンで本来の力を発揮しつつあります。ここでも高橋は12位とまずまずの結果。出場選手最年少の瀬賀楓佳(トーンパートナーズ・チームケンズ/山梨)はスイムを6番目で上がり好成績が期待されましたが、バイクで惜しくも落車。35位でのフィニッシュに留まりましたが、大きな可能性を見せてくれました。

ー:WCムールラバ大会ではどうでしたか。

中山:久保埜南(トーンパート

ナーズ・チームケンズ/山梨)が11位に入っています。WTS横浜大会出場組を追う福岡啓(神奈川県トライアスロン連合)が17位、蔵本葵(東京ヴェルディ/東京)が24位という成績です。続いてWCニュープリマスでは、上田は13位、加藤友里恵(千葉県トライアスロン連合)が14位でした。

ー:選手層の厚い日本女子選手の中で競い合う、という形になってきていますね。

中山:選手同士が普段から競い合うことは大切です。また最近、ITUのレースはスプリントディスタンス(25.75km)が増えてきました。オリンピック本番のスタンダードディスタンス(51.5km)でパフォーマンス

Top interview

トップインタビュー

女子は横浜で表彰台を狙う

スを出すには、最後のランで粘らなければいけません、同時にスプリントディスタンスのスピードが求められます。シーズンが進むと、さらにランの力が試されるでしょう。

一:WTS横浜大会でのレース展開はどのようになるでしょう。

中山:女子は、フローラ・ダフィー(バミューダ諸島)を中心に展開していくと思います。理想を言えば、スイムをダフィーより前でフィニッシュして、バイクで第1集団を確保しながら戦い、ランで勝負をかけることです。昨年のレース展開より、さらにスピードアップしてくることは間違いありません。

ナショナルチームとしては、佐藤と高橋が昨年よりも安定した力を発揮できるようになっているのが良い傾向です。上田と井出はレー

ス経験が豊富で、シーズンが進めばベストのパフォーマンスを発揮してくれると思います。何と云っても、久保埜、瀬賀の若手に勢いがあるのが頼もしい。横浜大会に出場するのは、上田、井出、佐藤、高橋、久保埜、瀬賀ですが、このうち5名はスイムをトップ集団で上がる泳力を持っています。特に瀬賀は、スイムをトップで上がるかもしれません。佐藤、高橋はランが改善されてきていますし、ダフィーと勝負しながら表彰台に上がることも可能だと思っています。

一:男子はどうでしょうか。

中山:WCムールラバ大会では、小田倉真(三井住友海上/東京)が18位、古谷純平(三井住友海上/東京)が20位。ニュープリマス大会では、古谷が12位というのがおまな成

ITU世界トライアスロン シリーズ(2018/横浜)

<https://yokohamatriathlon.jp/wts/index.html>

スタート時間

5月12日(土)

06:55 パラトライアスロン

10:06 エリート女子

13:06 エリート男子

5月13日(日)

07:15 エイジパラトライアスロン

08:00 エイジグループ
(スタンダード・リレー)

11:00 エイジグループ
(スプリント)

NHK BS1 中継

5月12日(土)

10:00~15:10 予定

績です。男子はリオデジャネイロオリンピック後に田山寛豪(NTT東日本・NTT西日本/流通経済大学助教/JTU専門委員)が引退したため、日本を背負うエースとして誰が名乗りを上げるかも注目ポイントです。

一:海外からヘッドコーチを招聘しましたね。

中山:カナダから、パトリック・ケリーコーチが来て指導に当たっています。すでに1年が経ちました





Top interview

トップ・インタビュー

チャレンジする男子に期待

が、選手たちは順調に育ってきています。いまのところ横浜大会に出場できるのは古谷、小田倉、前田凌輔（ベルリオ/愛知）、細田雄一（博慈会/東京）、石塚祥吾（日本食研/愛媛）の5名です。

一：細田が第一線に戻ってきたのですね。

中山：リオデジャネイロオリンピックで代表を逃し、少し停滞していましたが、東京オリンピックを目指すようです。その間に、古谷、小田倉が実力をつけてきました。それを前田と石塚が追っている、という状況です。古谷と小田倉、前田、石塚は、若手の内田弦大（AS京都/学連）と一緒に、JTUのポテンシャルアスリート強化拠点の山梨県甲府でケリーコーチの指導を受けています。ケリーコーチは、全体を見て指導を

するやり方で、選手の特性に合わせてパフォーマンスを取り出していくことに長けています。私生活や行動面でも、きめ細かな指導があり、日本選手に合っていると思います。

一：横浜大会の男子はどうでしょう。

中山：イギリス勢やスペイン勢をはじめとする男子のトップ選手とは、少し水をあけられていますが、出場する日本選手はいずれもスイムが速いので、バイクまでは十分に第1集団で戦う実力があります。です

から、ランでも最後までチャレンジしてほしいですね。

一：横浜大会では、男女とも面白いレースになりそうですね。

中山：層が厚くなってきた女子と、ケリーコーチの指導で体制が変わった男子で、今年は一層の期待が持てます。どこまでトップと一緒に競えるか楽しみです。レースでは先手必勝でないと言表彰台は狙えません。今年は、必ず先手を取っていきます。

第32回オリンピック競技大会（2020/東京）

- ・種目：個人（男女）とミックスリレー
- ・出場枠：男女55名ずつ（出場資格枠51、開催国枠2、三者委員会推薦2）
- ・国別最大出場数：3名
- ・オリンピック出場資格システムは2018年5月11日～2020年5月11日までのポイントによる

今年からパラリンピック 出場資格ポイントを積み上げる

JTUパラリンピック対策チーム

チームリーダー 富川 理充

ー: 今年のパラトライアスロンは、オーストラリアのパラトライアスロンワールドカップ (PWC) デボンポートが第1戦でしたね。

富川理充: 昨年パラトライアスロンへの転向を表明したPTWC (車いす) の土田和歌子 (八千代工業/東京) が3位に入り、幸先の良い結果を出しました。

ー: リオデジャネイロパラリンピックでは、男女とも3クラス60名の出場枠でしたが、東京パラリンピックでは変わりますね。

富川: 男女とも4クラスで80名ずつがエントリーできます。しかし、現在9クラス*あるうちのどのクラ

スが実施されるかは分かっていません。どのクラスの選手も、自分のクラスが実施されることを前提に練習をして大会に出て、ポイントを取りにいきます。東京パラリンピックに出るためのポイント加算は、オリンピックと違っておそらく2019年のシーズンに入ってからになるでしょう。つまり、採用されるクラスが決まってから、ということになります。だからといって、それからポイントを取りに行くのでは遅いのです。今年からレースに出て良い結果を残し、ポイントを積み重ねなければ、2019年のポイントが得られるレースに出場する資格が得

られないのです。

ー: パラリンピックも、選手層が厚くなっているのですね。

富川: どの選手も、メダルを目指して今年から本気になっています。

ー: それでは、女子から聞かせてください。

富川: デボンポート大会で土田は、試泳時の水温17度、レース時19度のスイムを泳ぎ切って3位となり、自信を取り戻したようです。昨年のロツテルダムで開催された世界選手権では、同様の低水温への対応で課題を残しましたから。ラストの競技用車いすを用いるランはダントツの速さであり、すでにこのクラスの





Top interview

トップ・インタビュー

女子から世界のトップ選手が

トップクラスの選手として認知され、誰もが土田を意識したレース展開を目指してくるでしょう。ただ、競技者としては、他競技で国際大会のレース経験も豊富ですから、今年のITU世界パラトライアスロンシリーズ (WPS) 横浜大会でも昨年に引き続き活躍を期待しています。

PTS2の秦由加子(マーズフラッグ・稲毛インター/千葉)は義足を替えて、またランが速くなりました。リオデジャネイロパラリンピックまでのシーズンと比べると合宿などの練習時間がある程度確保できるようになったことも大きいと思います。このクラスはリオデジャネイロでメダルを独占したアメリカの3選手が強いですが、フィンランドのリーサ・リア選手が昨年のITUパラトライアスロン世界選手権

(2017/ロッテルダム)で優勝して、メダル争いの層が厚くなっています。秦は、スイムに自信を持っていますので、そのアドバンテージをバイク、ランでどこまで粘って維持できるかが鍵となります。

PTS4の谷真海(サントリー/東京)は、すでに世界からマークされる選手になりました。出産から戻って、リオデジャネイロでも出場の可能性はあったと思いますが、無理をしませんでした。昨年からレースに本格復帰、ロッテルダム世界選手権も勝利し、全勝で昨シーズンを終えることができました。でも、2020年までの2年で、全選手が谷を目標としてきます。新たな選手が谷を追って現れることも考えられます。谷はいま日本で、一番メダルに近い選手と言えますが、決して

楽観はできません。

PTVI(視覚障がい)の円尾敦子(アルケア・ゲンゼスポーツ/兵庫)はまだまだ伸びしろがある選手です。リオデジャネイロでも、あとひと頑張りが入賞できる位置まで来ました。もう一皮むけて、上位を目指してほしいですね。

一:楽しみな選手が多いですね。男子はどうでしょう。

富川:PTWCの木村潤平(社会福祉法人ひまわり福祉会/東京)はスイム出身で、逃げのレース展開が持ち味です。昨シーズンからハンドサイクルの強化を重点的に進め、木村自身も成果を感じているようです。バイク終了時点でどの位置にいるか、ランでどこまで粘れるか、横浜大会が楽しみです。

PTS4の宇田秀生(滋賀県トラ

層が厚くなった男子

イアスロン協会)は、大学までサッカーの選手で県代表に選抜されたこともあります。競技経験は多いほうではありませんが、基礎体力があります。昨年のロッテルダム世界選手権でも4位に入りました。競技を楽しみながら順当に伸びてきており、非常に期待される選手の一人になりました。

PTS5の佐藤圭一(エイベックス/愛知)は、冬季パラリンピックでもバイアスロンとクロスカントリースキーの種目で平昌大会に出場し、バイアスロン立位15kmで入賞しています。バイク、ランが強いので、スイムの順位次第では表彰台も射程圏内に入ってきます。

PTS2の中山賢史朗(東京ガスパイプライン/東京)と、PTVIの中澤隆(インヴェンティヴ・タカラエム

シー・インターフィールド・青山トライアスロン倶楽部/東京)も出場します。連続出場している中で、昨年よりも上位入賞を期待しています。そのほか、PTVIの米岡聡(三井住友海上火災保険/東京)は、横浜大会のロールダウン(参加予定選手のキャンセル待ち)を待っているところです。

一:男子の選手もずいぶん層が厚くなって楽しみです。今年の今後の予定をお聞かせください。

富川:パラリンピックに繋がるポイントが取れる大会は、横浜以外では海外の大会が主になります。今年は、海外遠征はおおむね月1回のレースとして計画をしています。ITU世界パラトライアスロンシリーズの5月の横浜大会、6月イゼーオ大会、7月エドモントン大会の3戦

を軸に、8月フィリピン・マウントマヨンのアジア選手権、そして9月のオーストラリア・ゴールドコーストの世界選手権という予定です。

一:かなりの移動距離ですね。

富川:今年は、全員がランキングを上げて維持していくことが目標の一つですから、少しでもポイントが取れるように頑張ります。そして、シーズン後半の世界選手権で昨年以上の結果を目指します。

*:ITU競技ルール上は、座位2クラス(PTWC1、PTWC2)、立位4クラス(PTS2、PTS3、PTS4、PTS5)、視覚障がい3クラス(PTVI1、PTVI2、PTVI3)の9クラスである。ただし、レースでは座位クラス、視覚障がいクラスに時間差スタートを適応させ、各1クラスとするため、メダルイベント数は6となる。

